朝鮮日報

(電話番四三〇番)

青年と結婚問題（一）

結婚が各人の幸福に及ぼす影響は至大のものにして實際上の成敗も酷似の撰擇如何に關るあるを少しとせず古語に曰はずや其男子は其妻の爲に左右せらるゝ者なり」と。されば良妻を有する人は其の福運を受くること最も偉きなるにあらずや。「存在の士は幸不失敗に遭遇するでとも其身無妻の人に比例し如會で謂つて曰く「亦むらず。[illegible] りとも之を挽回するとの[illegible]の調底及ぶ所にあらず蓋し是れ彼れの精神は家内の情愛に依りて慰藉せられ一歩門を出れば全く暗黑と[illegible]すゐ[illegible]一小世界あり面して彼は[illegible]るに依りて自重の活[illegible]ばなり之に反して獨身の人は動もすれば自棄自[illegible]に陷り易く一敗地に塗れて復た起つ能はず[illegible]破屋の如からんのみ」

主として實際上若くは保護心の見地上より結婚を見て吾人は愛の目的なるあるに推定せざるべからず[illegible]を變へて言へば熱情の人と[illegible]自己に適應の婦女子の愛に落ちむやう其感情を支配し得るあとを推定すべきなり。

結婚の時期 結婚の時期については古來學者の説く所種々に分れて一定せず今例は一問題にして存するものなり、アリストウレースは男子三拾七才女子十八才を以つて適當の時期なりと教へ、プラトーン男子三十歳女子二十才を以て結婚すへしと奨めルーソン博士は男子は少くとも二十八歳女子は少くとも二十一才を越ゆるにあらさ[illegible]

結婚すべからずと謂へり、之は[illegible]フランクリン其他の大家は早婚を主張した[illegible]り[illegible]偉關澤翁の如き亦然り而して[illegible]各人各個の問題にして一概に之を斷定するあと能はざるべし

現今日本民法第七百六十五條は男は滿十七年女は滿十五年に至らざれば婚姻を爲すことを得ず

下等動物は[illegible]するに至れば直ちに異性を[illegible]し[illegible]ず而して理性の發達未だすなからざる[illegible]年亦た同じく動物的本能の[illegible]を[illegible]びて妄に結婚を急ぎ或は[illegible]演出して憚らざる者比々皆な[illegible]多少浮世の辛酸を嘗め來りて[illegible]明かなる者は深慮遠謀の指示する所に從ひて一時の情を抑へ一家を安樂に[illegible]見込確的ならざる限りは決して結婚せずよし其見込確的なりとも心身共に健全なるにあらざれば妄りに配偶を求むることを敢てせざるなり、結婚によりて生ずる[illegible]る責任は未だ十幾[illegible]の阿堵[illegible]に取り[illegible]術の漸く拔落ちた計りの阿坊樣方に取りては餘りに苛重の荷物なり（孤）（未完）

雜報

●新造驅逐艦進水

呉海軍工廠にて建造中なりし驅逐艦[illegible]は五日午前呉港にて擧行せられたり、[illegible]有馬中將以下鎭守府各將校高等官、[illegible]將以下工廠各高等官及其夫人等參列し[illegible]水平線以上を鼠色に、水平線下を赤色に[illegible]て[illegible]をなし内田工務部長、河野副官等乘艦せり又進水臺には有馬中將山内少將等在り主任技師の號笛にて同艦の木材を取はづし午前九時三十分艦船部長[illegible]を切斷するや一直線に下りて[illegible]海面に浮び成績頗る良好なり、同艦右舷は[illegible]水せし[illegible]同型にて排水量三百八十噸、速力二十九哩、四本煙突にして其武装は拾二斤砲一門、六斤砲五門、水雷發射管二にして直ちに艤裝に着手し一期間に竣工するの[illegible]

韓國の移民嚴禁

韓國民にして他國人に誘はれ墨西哥布哇等に移住するもの漸次多きを加へたるが此等移民の中には頗る不都合の取扱を受くるものあり中にも墨西哥出稼の韓民中には奴隸の如く賣買せらるゝものあり殆ど取扱の途[illegible]害なり

修養（二）

たいせん遊

[illegible]汚手を以て白紙に觸れんか必ず汚るゝ事を免れず、人の社會に立つや必先づ自己の心を淸淨にせざるべからず、若しも已れの心淸淨ならざる時は胸中に如何なる大志を懷き如何なる事業を爲すとも悉不淸淨なるを免れず、總ては粉を誤り家を滅ぼし風俗を亂り他人を敬はすことと恰も白紙に汚手を觸るゝと如きなり、故に自己の心を淸淨ならしむるは人の最も緊要とする所なり若しも[illegible]如何に外面を飾るも[illegible]の間、夫婦の間、朋友の間[illegible]の交際の間[illegible]其の間に和睦の眞情は見るべからざるに至る[illegible]內心不淨なる時は隨て外用の不淨になるは理の當然なればなり。

不潔心を戒むに就き佛陀の聖經に左の語あり

（第一）心を穢し又淫逸の情を起さしむる演劇寄席の場に到るべからず。

（第二）如何に喜に樂みありとも志を來るゝ淫情の念を生せしむべき演劇を[illegible]見又讀む書物を讀むべからず。

（第三）淫逸の談話歌舞[illegible]耳門に入れば必ず心を穢す。

（第四）心に不潔なることを[illegible]淫逸なるあとを想像すべからず常に[illegible]を善事善道に注ぐへし。

（第五）淫逸なる惡友に交はる事勿れ善年にして[illegible]に交はる時は[illegible]の淵に沈湎して再び浮ぶあと能はず

信仰・未來の所望

八百七拾古來稀れなりと、噫徒らに現今のみ執着して永き未來の觀念を忘るゝからず[illegible]はあの觀念なからへからす樺花の如き此世にのみ[illegible]として未來まで觀念はなき人もに生を[illegible]にせんか人間の特性は暴して邪逸に存する[illegible]人は[illegible]全世界を以て自己の[illegible]有とするも[illegible]と肉体と相離るゝ時は百般の事業皆徒勞に屬するのである、人の肉体

日本文界に與ふるの書（六）

古山劍風

足下[illegible]が嘗て文士とはパン製造所の勞働者也と[illegible]したるが如く定に前半期時代の文士に對せし評命は頗る殘酷にして稿を抱いて食を求むるに追はれも稿を脱す

[illegible]なる物質的限なきものはなし、故に[illegible]の肉体のために[illegible]所の幸福もまた有[illegible]ある[illegible]のは無常に相續[illegible]靈魂なおざなし、故に靈魂に永遠不朽の幸福を獲るまで心懸けざるへから[illegible]而して期する永遠的幸福を得んには宜しく有限界を離れて眞善の無限絶對に歸着せざるへからず、これ佛教で所謂保諦門を出で[illegible]諦門に[illegible]入すべき順序なりとす。

[illegible]するは未だし、[illegible]の如く[illegible]は[illegible]劇史を以て其一※を[illegible]せ[illegible]を[illegible]、而も[illegible]みて吾人は斯かる悲言を[illegible]

足下よ、時勢は如何なる時勢ぞや、時代は如何なる時代ぞや、將た又如何なる文士に對して如何なる時勢ぞや、何なる時代ぞや、[illegible]なる事調主義なる彼れ[illegible]帝よりて[illegible]にたる百萬の兵は今如何の[illegible]や、而かも顧みて大和民族の境遇に到達し見よ、彼の[illegible]からざる一大氣魄は今や[illegible]れて[illegible]の地を[illegible]に平和的[illegible]戰場さへも[illegible]しつゝあるよあらずや此時に當り獨り文界の[illegible]の如く、後半

[illegible]が如きは彼等の意も怪しまざる現象にありき、斯くの如き境遇は彼等文士をして遂に吾等が[illegible]たる大作に[illegible]て不能の二字を以て[illegible]べからざるの不幸を演ぜ、[illegible]を脱するあは滔々として悲劇に出で[illegible]に[illegible]は世界的豪放の作を觀る能はさるに至れ[illegible]ゴーが[illegible]の河岳を震動するが如き『魔王』の作を讀み、而して勝治[illegible]生期に於て比較的[illegible]作と稱せらるゝ作物を翻譯する時吾人は其の結想の愚其の行文の破[illegible]き[illegible]にわらずや、若しくは彼のバイロンが『海賊主義』の如き強大なる作物より一轉して本邦文學書に對さんか吾人は其の餘りに女々しき女郎文學のために深く体邦文學の價値を[illegible]とす、吁足下よ再言三言するも吾人は遂に明治文學[illegible]の作物を以て世界に誇大せんと

期の[illegible]を以て記さゞるべからず[illegible]は將來何れの時か[illegible]呼[illegible]の[illegible]大悲劇を以て世界の人目を[illegible]すべし[illegible]吾人は[illegible]に悲觀のよ[illegible]語を[illegible]して以て快とするものにあらず、吾人は彼の[illegible]寧ろ百花[illegible]の春日を愛するものなり吾人[illegible]よ[illegible]を以て[illegible]に[illegible]なるものと謂はんや。

●一顰一笑 瘦骨稜々たる戰將中將は此頃知人の許へ出征後日見を[illegible]るに隨ひて益々健康を加へ近來稍々肥滿して軍服の狹小を感ずるあど頻りなれば凱旋の時は出征前と打つて變り大兵肥滿の好將官となると諧合なりとの文通があつたとのとである我が將軍は戰陣に臨めば一段の健康を加へ來る[illegible]の神經衰弱に苦めると[illegible]の相違で

文苑

●雜春吟

[illegible]會

亞字欄頭韓妓立ちけり春の月 半人

樓上の韓歌更けて朧月

幾々過ぎす女あやしや朧月

郊外に出ておぼえたり朧月

むくげる[illegible]雀見せしう寒な子の

新調の傘の香ひや春の雨

酒五升花に暮れたるよい心地 天奴

町幾つ通れば花の名所哉

櫻見る紋のわひは[illegible]

鷄合せや櫻の宮の人だかり

玄關[illegible]結[illegible]雛祭

下婢も今日はお客の雛祭

講談

武勇の譽（仇討）（廿九回）

本社[illegible]員速記

[illegible]話し續いて此方の藤助重太郎[illegible]其の晩延命寺に來つて泊る 重「藤助今日他が話に出ましたのは何んだと思ふ」藤「左樣でございます[illegible]に寄りましたら貴下は人に恨を受けてお困りなすつたとでもあつて又さうでもない[illegible]を受るやうなことがあはしないかといふので早くお立なすつたのではないかと存んじます」重「イヤ[illegible]話せば長ひが仙臺に於て人に[illegible]が[illegible]をうけて實は[illegible]目に合ひたこともあるば話すまい拙者が大切のお身の上望みを果すまでは[illegible]れ刺せたくない身体妖怪退治の一條に付て若侍ひより恨みを受けて出立をいたした時に藤助今に至へ現れを追つて來るものがあるであらう」藤「ヘエー」重「夕[illegible]が黑川[illegible]右衛門の宅で島渡逢つた姓名は分らない十四五才の[illegible]ましき少年彼は容易ならざる[illegible]の若侍なり人物[illegible]に[illegible]たら[illegible]をしたので此處に來るかも計り難ひ」藤「ヘエー夕逢黑川に居りました

十四五才の少年とは……分り[illegible]せう」重「なんだか知らぬけれど[illegible]るかも知れんとわしは思ふ」藤「[illegible]」さん御客樣で」藤「旦那御客樣だそうでしお待なさいまし玄關へ出て來ると[illegible]を取て角部虎之助」虎「岩見先生は[illegible]か」は「若旦那」虎「岩見先生はお出か」藤「之は藤助しやいます」虎「御目通りをしたく[illegible]し」こ「之は不思議だ若樣岩見樣が貴下に[illegible]いま話しをなすつた處でございます」[illegible]お待なすつて……先生來ました[illegible]た」藤「虎之介樣が來ました」重「[illegible]何うだ藤助拙者の考がへは違ふまい[illegible]ろきました」重「此方におつれ申せ」[illegible]虎之介を伴なふて座敷に這入り[illegible]に兩手を仕へ」虎「先生影ながら拝し授も申し上げません角部[illegible]の二男申すもの[illegible]御見知りかれ御懇命他はございません私くしは武藝[illegible]且昨夜の[illegible]勇猛な年の私くしないましてわれ天下に名を輝やかしたい精神先生をしたひ之れ迄[illegible]下の端にお加へを願ひたく御承[illegible]有難ひ仕合」重「岩見重太郎お見懇命を武藝御熱心の段[illegible]するに背某がしをよまで[illegible]添じけない[illegible]しか[illegible]御身之父兄もり[illegible]重太郎是より御同行仕つる[illegible]だ[illegible]御話しをいたろう」虎「千萬忝[illegible]います」重「藤助夕飯の用意を[illegible]頼だらう」藤「若樣御飯を召上[illegible]濟みました之から虎之助を一[illegible]夕飯を濟せ又々座敷に呼び[illegible]みながら話しになりました藤[illegible]存じのごとく黑川の妖怪の[illegible]があの儘に捨て置ます[illegible]家中には人なきがごとく殊に[illegible]舍劍の御指南をもいたして居[illegible]恥辱になりますこと故願はく[illegible]つても勸めやうと存んじます[illegible]とめまする手段もあれば御[illegible]くぞんじます」重「イヤ御尤と[illegible]なり忠なり[illegible]公若年ながら見[illegible]たる御器量委細心得た充分[illegible]御傳授をいたそう[illegible]武藝と[illegible]他味方なし心を鎭め[illegible]一の極意といたしますた[illegible]るため黑川の家に居らうと[illegible]しとめるのである見[illegible]が出ると怪物の[illegible]でざる[illegible]念[illegible]たゝ常のごとく[illegible]られるのが何よりの極意で御座います

現錢拾七割七步

手形出來ず

雜報

●我掌裡にあり

[illegible]ける大打擊を蒙り退却[illegible]せる能はず開原、昌圖[illegible]敵は其抵抗力既に全滅[illegible]方の各要所に停止せる[illegible]て一戰を試みんために[illegible]戰地へ輸送したるも多[illegible]緩援し且退却兵の輸送[illegible]を賭して踏止り居る[illegible]援を得るにあらざれ[illegible]も之に對すべき戰時[illegible]れ力なく殆に敗餘の[illegible]の戰鬪力は僅に三四萬[illegible]して過ぎにあらざるべ[illegible]拾ヶ師人の攻を行く[illegible]勿論給養も最早我[illegible]軍事專門家は語れり

●韓皇の御親書

[illegible]れ來る韓皇の御親書[illegible]を奉り武を揚げし[illegible]局を維持せんと欲す[illegible]快樂なる推入の其の[illegible]の權威の推さず所動[illegible]頓の陷落は向し[illegible]正に陛下の[illegible]を見んとす脫義[illegible]大使を派して[illegible]に汗へん

●李大使御訪問

皇陛下には韓國特派大使義陽君（李載覺）御訪問の爲め大寺侍從長を明七日午前十時芝離宮へ差遣せらるゝ由にて同時に李大使に桐花大授章を其の他隨員閔氏以下六名へ左の通り敍勳あるべしと

勳一等旭日大授章　閔泳[illegible]
勳二等瑞寶章　李[illegible]根
勳二等瑞寶章　柳[illegible]相
勳四等瑞寶章　金[illegible]善
勳六等單光旭日章　[illegible]
　　　　　　　　尹[illegible]

成信遠く布き功利の普及を見んとす脫義[illegible]閣に在り長く奉祝に汗へん
大使に特に皇族義陽宮大勳李載覺を派して
並に十寶數品を贈りて朕が友睦の忱を
表す[illegible]は寔に厚望なり

●露國未聞の財源（米國石油王の現況）

米國銀行家は露帝に戰意あるを確めて公債を引受くることを拒絕したる由は昨日の當致電報に見ゆしが右は正しく今日米國人の意向なれども夫のスタンダード石油會社のロックフェラー氏は此の機に乘じて其の怪腕を振はんとし若し露國政府が年限を定めて露國石油の一手營業を許さば一億乃至二億は公債として現金の數を揃へて之を差出すと云ふ[illegible]ころに進上すべしとの色をほのめかし居り露國政府に於ても大に之に意ありとか其邊の消息に通ずる人は語れり

●通信機關依托の利益

韓國が其の通信機關を我國に委任するの件は益々進み二日調印濟となりたるを以て今後は內地同事業に經營せらるゝなるが由來韓國は此通信機關の費用として年々三十萬圓を消耗し來りしも今後日本の手に依りて之を經營せらるゝなれば右の損害なく[illegible]して却て彼我共通となるの利益あるのみならずといふ

●鐵道線路の妨害に就て

火賊等が時々出沒し且つ營殺非文明なる韓國內地を貫通する鐵道なるも本邦の如く線路妨害者なる可くは頗る許なるも線路の柱の鐵上に往々[illegible]るゝが如き事ありて運轉を中止せざるべからざる事あるにより京釜鐵道本線に於ては各驛へ注意通牒し置くべしと

●韓列館開館式と準備

來る十六日十七日兩日の開館式には演劇を初め諸種の餘興あるのみならずビール、汁粉店等の設けもあるに依り來る十四日頃より準備に着手すべしといふ韓國委員は目下稽古中なり

●新電話と亂用

過般來增設したる電話器を亂用する弊害は甚て當事交換局のみならず一般に影響し交換局に遲れが注意迄申し込むのさへ一般の注意を要す

●驛員募集

京釜鐵道株式會社には今般志留者は左の各項に該當する者を[illegible]驛夫及び出札係貨物係[illegible]に保證人署名捺印し運輸課に願出ずべしと
一驛夫　初め日給金四拾錢位迄全高等小學卒業程度の教育あるもの
一出札掛及貨物掛り初め日給金四拾五錢位迄全高等小學卒業程度以上程度の教育あるもの

●東萊結所の撤廢

昨紙記載し置る通り牧の島移轉に就て同所は撤廢せらるべし從來の場所に在て營業し來年より專ら東萊局に從事することゝなり東氏が大夫[illegible]れの爲め久しく三重縣地方に出張し居りしが昨日入港の肱川丸にて漁夫男女七十餘名到着したるを以て當港附近漁業中は牧の島に常時出張所を設け約一ヶ月後蔚山近海に通漁し同地に於て盛大なる罐詰をなし十月末迄に約千五百箱（代價二萬圓）の製品を了り凡て長崎在留淸國人に賣込の約定なりと聞く

當地罐詰業の一般に不振の原因は主として原料の缺乏と高價なるとにより同所は此欠點を避け自ら漁獲と製造とを兼業するにより製品の精製することと勿論原料品切れの氣遣もなく所謂一場作業の製造所の如く一時に多く萬事に於て利益頗る確實なりと云ふ

●三學法學士

元衆議院員三島太郎氏は韓國に於ける第一銀行支店の主要なる[illegible]立會[illegible]の爲め[illegible]て來月中旬渡韓[illegible]面に赴かるゝ筈なり

大邱通信（四月[illegible]日特派員發）

▲公園問題の解決

當報當地西門外に於ける達城山を以て當地の公園地と定めて[illegible]の報道をなせり

●往事債券實出

當地第一銀行出張所にては去日より往事貯蓄債券の實出しを始めたり

▲昨今の陽氣

桃節句以來毎日の好天氣と云ひ昨今頗る好適なる氣候になれば達城山に散步を試みるもの多し

▲之の件に就て

は去日有志者會合の上協議する所ありたる結果當郡守李殷觀と交渉せる試みしが李郡守は大に賛成の意を表せられたるやにて去十一日に郡廳に於て再び有志者の會を催し其施設方法を協議し及び結局五名の委員を擧げ同公園開園に關する一切の準備を託することとなり又た韓人側よりも數名の委員を出すこととなる筈にて委員の指定により數名の委員を出すこととなる[illegible]べければ此等の委員に於て差當り相當の施設をなし數年間の經營を畫にして其設備を完成するの目論見なりと同公園に就ては太邱の爲め此愉快なる公園の開設を見んとするを喜ぶなり

▲避難列車の着發

京釜鐵道會社より特に仕立てたる大邱避難列車は最新亞米利加式の一二等食堂付列車四臺を聯結し釜山の紳士紳商百數拾名を乘せ本日午後○時三十分當驛へ着車したるが當驛の着車は悉く下車して三々五々市內各地を巡覽し全四時釜山へ向け發車したるが釜山富民の重なる多數か斯くも揃ふて當地の見物に出掛けられたるは實に未曾有の事にして當地の爲めに喜ぶべき所謂ひらくは事實が出で歡迎の意を表する能はざりしと雖も當地は由來釜山と密接の關係を有する地なれば自後益々其便を得て十分なる觀察を遂げ以て當地の發展に資せらんことを祈り度しと共に諸君の眼に映じたる大邱の如何を求めり度しとの出

○韓人と強制種痘　せよ[illegible]一時流行を見たりし當地の天然痘も先便報じたる如く一先づ撲滅に歸したる觀あるが尚ほ韓人間に多數の罹患者あり到底撲防の方法に苦しむ所なるが斯くては危險千萬にして何時再び該病發生をみるにも計られず依て此際一般韓人に對し強制的に種痘を施行せしむるの要あるを以て此際觀察使より嚴重の命令ある樣當路に於て勸告ありたきものなり

○夜警組の必要　近來當地の繁盛に連れ盜賊非常に增加したりとみへ被害者續出殆んと其害にたへざるか警察には時々密行偵察を爲して其退治方に盡力されつゝあるも何分今日の少人數にては當地の如き巡廻區域の廣濶なる地にありては到底充分なる効果をみるを能はざる理なれば夫よりも自衞上夜警組を組織し當地を兩分して西門內外より南門外迄を一區劃とし更に東北門外を區劃とし毎夜々警を實行するに至らば賊難を絕つ上に於て多大なる効績あるべしと云ふものあり

▲卒業證書授與式

當地北門內達城學校にては休日午前拾時同校に於て第二回卒業證書授與式を擧行したるが韓人生徒並に日本人側よりも多數の觀覽者あり一々授與を興へ次に[illegible]校主の報告並に[illegible]職員の演舌あり鎭衞隊長の祝辭にて萬歳を三唱し府尹は來賓と日高大尉外[illegible]二の祝辭あり終て卒業生總代の答辭生徒の唱歌等ありて式を閉ぢたるが來賓人へは茶菓の饗應ありたり

●居留地歲入出豫算表

（過日記載せしは誤謬の點ありしを以て更に揭載す）

歲入

一金十萬三千八十圓也

歲出

一金八万二百五十七圓也

合計二萬二千二百七十七圓

差引二萬八百三圓　　殘餘高

經常費　臨時費

經常費	本年度豫算額
科目	
第一款役所費	一五、一九五、〇〇〇
一項給料	一〇、四二八、〇〇〇
一民長給料 年俸千五百圓ノモノ一人	一、四〇〇、〇〇〇
二助役給料 年俸九百圓ノモノ一人	九〇〇、〇〇〇
三收入役給料 年俸七百圓ノモノ一人	七〇〇、〇〇〇
四技師給料 技師一人月俸八十圓	九六〇、〇〇〇
五書記給料 定員十三人一人平均三十七圓	四六〇八、〇〇〇
六技手給料 定員二人一人平均四十圓	九六〇、〇〇〇
七徵稅監視人給料 定員一人月俸二十圓	二四〇、〇〇〇
八雇員給料 定員一人月俸二十圓	七六二、〇〇〇
九小使給料 平均日給七十錢迄入員八九十五八	八二一、〇〇〇
定員五人日當四十五錢	
二項雜給	一、二四一、〇〇〇
一旅費 民長以下出張赴任旅費	五〇〇、〇〇〇
二交際費 民長交際費	四〇〇、〇〇〇
三文具料 廿七人一ヶ月一圓二十五錢十二ヶ月分	八一、〇〇〇
五器賄料 宿直料百貳拾七圓七拾五錢臨時賄料八拾錢圓貳拾五錢	二二一、〇〇〇
六傭人料 一日一人平均七拾錢延七十八分	四九、〇〇〇
三項需用費	一、八〇一、〇〇〇
一備品費 官報。職員錄。法令全書。机。椅子。木印。帳簿。書類箱。算盤。其他雜品	五五〇、〇〇〇
圖書印及類 本年度ヘ圖書ヲ備品費ニ印刷費消耗品費ニ編入	
二消耗品費 筆紙墨文具本年度ハ消耗品費ニ編入	六二八、〇〇〇
末炭。石炭。諸用紙類。罫金令書。罫紙。野紙類其雜品	
三公告費 前年度ニ依ル	一二〇、〇〇〇

「キモム」に與ふ（一）

門外漢

井底の蛙あり突如として井を出でゝ名乘りて『キモム』と云ふ、其の鳴く音や迷々惑々只々要領を得ざるのみならず時々發狂に近き言さへ發すれば、吾人は深く齒牙にも掛くるの愚を學ぶにあらざるも彼高慢の鼻頭を挫かざるべからざるの必要を感じたり、以下キモムの妄評を指摘せん

○彼獨頭諸發に於て山の俳壇を罵て流派をなすの程度に至らずと云ふ、一々會、さゝなみ會、六洲會其他の一團は初より何流派を標榜して立ちしもの、吾人は戲會の一員なり初より之を知らず、團より好む所を一にして會するものなれば流派なきなり、流派なきの俳團は價値なしと云ふか、「程度」と立つれば俳句の能事終れりと云ふにあるか、然るは果して那邊に存するや誰なるか、流派を然はキモムは之れ何派何流にして程度は何程迄に至り居るか、誰圖三昧は何書迄修めたるか、キモム以て如何とす

○慢心せよ、天狗となれ、發狂せよ……、果然キモムは慢心、無禮、發狂、天狗の徒なるを自白せり、是の證にして俳句が出來たら大變なり、只に呆然たるの外語を繼ぐの勇氣なきなり

○又曰く、例會課題の如きは句想を錬る餘裕かないと、キモムは俳句を商賣とせよと勸むるの謂か、甚だし、吾人は夫れ迄に獻身的に、俳句と情死する勇氣を有せざるなり、角頭巾と筆を携へ深山幽谷萩の舊圃四疊半的生活迄にはまだ／＼此の身が可愛きなり、大法螺を吹き立て保伊藤博文より天下あらゆる名士を己の朋友と振る回る、ちよこ才野心家にはどても出來ない、キモムは朝夕書夜談往來味噌へ、名譽も利益とも度外視し、風光霽月の士たる命力と人格とを有し居るか敢て問ふ

○自慢する資格あり、キモムいやたら資格天狗と奉る資格……資格、キモムいやたら資格と云ふ以上の標準にもやはり資格を必要となすか、吾人は其の必要たるおどを自信するか、吾人は金々彼が心底の解剖に苦しむ否全く其資格を有せざるなり

○「燭紅の「駒とめて」の句を非常に褒めたり燭紅と云ふ俳人は必ず嘗し淚に咽び給ふならめ吾人は羨膽の同情に堪へざるなり、然れども彼は亦へらず口を叩き「御常け概して良句なし」と云ふ

是は（ぞばり花の吉野山）

折針に烏帽子拂たり春の宵

皆是れ即席に外ならず、一題を捕へ一室に閉籠じゅん／＼どうなれば良句佳什を得るにあらず、自然の美を歌ふは必ず自然の闊放ならざるべからず、キモムなるものまた自然的云々の語を用ひながら、推敲錬句一室に閉ぢても吾等の氣燄を吐く如何にも前後矛盾四離滅裂の言ならずや。



回遊列車

斗南生

京釜鐵道會社が新に出來せし一二等列車運轉に就き、京城の官民紳士數百名を招待して大邱、京釜間の回遊を催した
麾は九日予も搭乗すべき一員となり午前八時門を出た
輕裝、輕裝と言ても僕には夏服とインバネスの借衣より外持たぬ先づ同行すべきトロを吞社に訪ふたならず舌打して同り同道をたどり伏兵山に出た、何日見ても見飽ぬは共山の眺めがら、今日は別て嬉しき心地す見上ぐれば空は澄みて水の如く海は靜かにして一碧の色なり春かすみ山てめ紫々として京釜鐵道會社の邊に相引く美人二人洋傘を斜にして前程を行く

洋傘の風香りゆく美人かな

停車場に至れば時未だ早し近藤氏を訪ふてしばし休む
此日案内を受て壯遊に加はる、人々皆知名の士秀麗、典雅、魁偉、英姿婆の如く、嬋娟、腰柳、貂鼠、佳偶花の如し一行大凡百四五十名中に外人六名韓人七八名を見る九時四十分搭乗す新調の一二等列車數臺流石に奇麗にして絨毯の香り馥として溢つ列車はれきらくとして走る

春の風滿載ふして花見氣車

郵線は思ひ〳〵に割據せり官報速家商達會社連中に新聞記者連ころ面白くも可笑し凡骨が

處あぐる小供も見ぬず高麗の春

など車中の秀逸である
當日の主人役足立太郎氏屬僚數名を從へて車中の賓客に挨す、理性の人、醉態の人やがて冷静の人と喪晩年ばする氏と思ふに寡默にして色青白くハイカラ式の高漫面らと思ひきや滿面喜色を湛いて雜話雜骨愛嬌のある老紳士なるは意外なりき

大黑のニコ〳〵として春の旅

大邱町に宏壯の庭園を作りて晩年茲す〳〵豪壯の福田增兵衞氏今日はフロックコートの出立にて盛大の愛嬌面を車中に撒まく肥を極めて和服の福田氏とはドーシテも思はれず或る人かビスマルクと評せるは頗る白し

實業界ビスマルク的と吹田氏が

滿鐵停車場にてしばし停車乘客皆逍遙す亭々たる偉丈夫顯々たる貴公子櫻桃李花の美人三五手を携いて帽傘參差中に一際異立つは石原氏長が魁梧の雄姿雪白の美髯風に靱きて鐵■桃の如き美人の間ゐ交るに至りて[illegible]の配合なり
[illegible]下に美髯の[illegible]

車中の復せば和洋兩種れ實緊出づビール氣ひシアンペン辭び頭嫌縦覽怒濫しで互に將く內氣なり
查の長廣告を擬ふ
長廣告事の旅とは思はれずつ〳〵

●三百圓をそらる　京城本町壹丁目明治屋にては昨日午後○時三十分頃金百圓を小僧に持たしめ拾八銀行へ預金の爲め遣したるが幸町壹丁目相原商店へ立寄り藁鞋中なる店を素見し居たる韓人等は覗かるす隙金及び預金通帳を盜み臺白散と逃げ去りたるが小僧氣付きたる事の漸かりけん騒ぎつかけたるも皆目行衞知れずと此の報を聞きたる主人は早速警務署へ屆出で來るは氣毒千萬の至りなり

●難破船（一名溺死）　弘島郡田部郡村字尾の浦北揚長松（十七）外二名は去る二日トウヴンゲー沖合にて難破し溺死中三名は仙口縣熊毛郡室積村手嶋中村楢松に救護されたるも弘島縣人高谷芳松（十七）は溺死し屍体行衞不明なりと

●日韓會開催　當港內に未だ都々逸に關したる會催しなきより日下或る通人方の運動中なる同會は毎日曜日に開催する由に付賛成者は雜觀及住所姓名を記して本社丸尾トロ宛に申込まるべし

●松井座の女芝居　賣出し一座の女芝居は去る八日より開演中ナる新品揃の上技倆が甘いと來て居るで觀客は毎夜〳〵札止めする位いなるが今晩の藝題は
▲箱崎文庫黑田騷動

●流行の洋服

▲背廣　背廣は肩より袖へかけ丸く袖裾になし丈は心々長にして背縫の下を少し裂き開しボタン二つを有す○片前、背廣共流行にて兩前は三つボタンとし○胴は紺茶の無地またはスコッチの霜ふり縞子類はネル地の如き堅縞も一般の受けよろし
▲フロックコート　裏地とせる絹は鼠色には絹裏をみせ兩前三つボタンにて襟り色の物流行す
▲ネーペーコート　は片前にてオワリとし丈は長めなり又フロックコート形も亦宜よし
○襟飾　ネクタイの品は藁花、色茶、無地等右は欧米に於ける最新流行にして經營者諸學校を卒業し此程渡韓せし人の談なり

●人相鑑別法

左は成人の考案に係る人相鑑別法なりお慰みまでに掲ぐ
▲髭　濃く延るは少しの事も氣にする苦勞性にて俗に苦勞樂爪と云ふ
▲頭　禿顱の如く禿げるは文學に趣味するか慾深き性質なり
▲顔　丸きは溫和の性、長きは頑固の質にて處世の高際の如き頭長に多し
▲耳　大なるは長壽、小なるは貧相
▲鼻　高きは男氣と强力あり低きは男氣な〳〵內氣なり
▲額　桃色にして肥たるは柔和、青白にて瘠せたるは短氣但女は貞節なり
▲口　大水なるは記憶力に乏し、■なるは記憶力に富めど能辯にあらず
▲頬　多きは感覺深き人、少きは事を行ふに急ぐ性なり
▲首　太短は膽も太くして内氣の性なり細きは輕薄かにして事に恐れず
▲腕　長きば腕力ありせまきは弱し但し病身の錯にはあらず
▲脚　長きは健康、縮りなるは多病の質
▲指　短きは慾ふ深く長きは利慾深し
▲腹　太にして丸きは氣長く小きは短氣なり、長くして下膨れたるは智慧あり
▲臍　凹みたるは壯健にして女に多く、凸なるは小兒に多くして病身なり
○尻　桃尻なると智慧あり、臼尻なるは鈍ある質なり
▲股　太きは惰■の質、細きば事を行ふ過ぎす
▲足首　太きは足弱、細きは達者なり

天氣豫報

南又は東の風晴　後曇り